

劇場に愛をこめて

桑森ケイ

《あらすじ》

福岡で活動する劇団スパロウズ。
迎えた公演初日、大地震が発生する。
劇団は公演中止を決定し、対応に奔走した。
ほっと息をついたのは数時間後
劇場には、関係者、観客がまだ何人か残っている――

《登場人物》

劇団スパロウズ劇団員

上林（バヤシ）

…劇団主宰。フリーター。

近藤

…劇団を辞める予定。

高田なほ（たかな）

…学生。

野田

…仕事をしながら演劇をしている。

公演関係者

上田ひろな（ピー）

…客演キャスト。上京する予定。

吉村（ヨシさん）

…劇団「伯爵気分」所属。照明兼務。

小笠原（ガッさん）

…劇場「シアターシェル」管理人。別で会社員をしている。

観客

榊原

…演劇が好き。

竹井みやこ

…高田の友達。

舞台は福岡市博多区に位置する劇場「シアターシェル」内。固定客席やステージ、緞帳などは無く、多目的スペースのようである。
いまは会場内を消灯している。舞台上手に劇場の出入口がある。

近藤・榊原入場。

近藤 え

近藤、会場内の明かりをつける。
明転。

近藤 なにしてんすか暗がりです。

舞台上に上林、野田、吉村。上林は就寝中のものである。

劇団スパロウズ第6回公演『国唇ヘルペス』本番初日、開演直後に発生した地震により公演は中止。舞台上には撤去途中の灯体や暗幕などがそのままになってあるほか、カップ麺、惣菜パン、飲料水が大量に置いてある。
下手には楽屋兼役者待機場所（ハケ口）があり出入りができるようだが、暗くて中はよく見えない。

野田 寝てるから

近藤 あー。ヨシさん（ト、タバコを一箱吉村に渡す）
吉村 さんきゅ
近藤 コンビニ何もないっす。ね
榎原 はい。びっくりしました

近藤・吉村退場。

榎原 なに読んでるんですか？
野田 今度の台本です
榎原 今度……『ハチコレ』ですか
野田 そうですそうです
榎原 来月ですもんね
野田 そうなんですよ
榎原 予約してますよ
野田 ありがとうございます

間。
上林、起床。

榎原 もう、次、なんですね
野田 です
榎原 すごく楽しみにしてたんですよ
野田 ありがとうございます。すいません、中止にしちゃって
榎原 いやいや、しょうがないですよ。……まだどこかで上演したりしないんですか？
野田 さあ、まだ話してないですけど、多分しないと思いますね
榎原 残念ですね
上林 むーちよ家着いたって
野田 これで全員？
上林 うん。良かったー
榎原 皆さんお家に着かれたんですね
野田 はい。歩いて帰れる人は
榎原 良かった
上林 榎原さんどこ住んでるんですって？
榎原 僕は若松です
上林 遠（とお）。わざわざありがとうございます
榎原 いえいえ。見逃すわけにいきませんから
上林 ありがとうございます
榎原 皆さん福岡市内なんですか？
上林 そうですね、全員。みんな一人暮らしです
野田 たかなはルームシェア
上林 そうね。ま、ゆっくりしてゆっくりください
榎原 僕はまあしょうがないですけど、ほんとに皆さん帰らなくていいんですか？
上林 いいんです全然
榎原 ホテルとか、きつとまだあると思うんですよ
上林 榎原さん。こういうときはなんとなくみんなと居たいじゃないですか
榎原 それはそうかもしれませんが
上林 もっと大きい余震来るかもしれないし
野田 帰れないメンバーもいるんです
上林 はい、避難みたいなものですよ。幸い、心の広い劇場ですし、せめて電車が動くまでは、ごゆ
榎原 邪魔じゃないですか？
上林 全然。気にしないでください。僕らも気にしませんから
榎原 そうですか、ではお言葉に甘えて。オジさんひとり、すみません

近藤入場。

近藤 野田さん、ラジオ交代しましょ
野田 おっけー。なにかニュースあった？

近藤 電車はギリギリ今日中に動き出すつばいです
野田 おお
榊原 はい、一部ですか
近藤 はい、一部ですけど
上林 そうなんだ
近藤 おはよう
上林 おはよう。まあもう遅くなるし、今日は泊まろう
近藤 うん
榊原 すみません
上林 ほんとに、気にしないでください
近藤 ま、一応よろしくおねがいします
野田 はい

野田退場。

上林 つかれた
近藤 おつかれ
榊原 おつかれさまでした
上林 あざます……一生忘れないと思うわ、今日
近藤 うん、俺も
上林 ラストステージ、幕、上がりませんでしたね
近藤 上がりはしたろ
上林 5分くらい
榊原 ラストステージ？
近藤 ああ、いや
上林 近藤、辞める予定だったんです
榊原 え？
近藤 お客さんだぞ
上林 実は。まだお知らせ出してないんですけど
榊原 ですよ。辞めちゃうんですか？
近藤 ……劇団を、ですよ？ 演劇は続けます
榊原 福岡で？
上林 いや、東京の方で
近藤 せっかく3年やってきたのに
上林 いいんですか？
榊原 いいんじゃないですか？ 僕も詳しく聞いてないです。知らんすよ
上林 そうか……残念です
近藤 まあ……
上林 でもですよ、その最後の舞台の幕が上がらなかったと
近藤 上がりはしたって
上林 1ステージもやってないじゃん
榊原 ラストステージはまた別の機会にしたらいいじゃないですか
上林 ほら
近藤 うーん
榊原 どうせなら華々しくやったほうがいいですよ。だってこの二人あつてのスパロウズなんです
上林 そんなに大したもんじゃないですけどね
榊原 もったいないですよ
近藤 分かってますけど……
上林 なんか歯切れ悪いんですよ。辞めるなら辞めるできっぱりしてくれればいいのに、なんかク
榊原 ヨクヨクしてるんで、もういいやと思って
近藤 なぜなんですか？
上林 いやまあいいじゃないですか
近藤 よくねえよ
上林 この公演終わってからしっかり伝えるって言ったら
近藤 もう終わっちゃった
榊原 ちゃんとお伝えるんで。もうちょっと待ってください
榊原 はい

上林 半端な覚悟じゃどこ行ってもしょうがないと思うけどね
近藤 んなこた分かってるよ

上田入場。

上田 ただいま
上林 おかえり
上田 コンビニなんにもなかった
上林 カップ麺あるじゃん。ヨシさん買ってきてくれたやつ
上田 健康的なもの食べたいじゃん

吉村入場。

上林 肉まん？
上田 とかおでんとか
上林 無いんだ
上田 無かった
上林 お風呂入れた？
上田 うん
上林 お湯出た？
上田 問題なし

吉村、バラシ作業をしている。

近藤 再開します？

吉村 うん。休憩したし

近藤 手伝いますよ

吉村 ピーちゃんおるけんいいよ、幕やって

近藤 あ、はい

上林 うちの照明力が上がらないのはヨシさんのせいですからね

吉村 お仕事つぎもお待ちしております

上林 伯爵忙しいじゃないっすか

吉村 そうなんよね

榊原 ああ、「伯爵気分」の方だ

吉村 はい、吉村です

榊原 観たことがありますよ

吉村 ありがとうございます

榊原 来月、『ハチコレ』で一緒ですよ？

吉村 ああそうですね、そっちでは役者で

榊原 あれ楽しみなんですよ、8つ観れるんですよ？ ハチだから

吉村 そうですね、8つの劇団で、まあ演劇祭というか、若手劇団集まってワイワイやろうぜって

榊原 よく集まりましたよね

吉村 うちの主宰の人望ですかね

上林 伯爵はもうギリ若手じゃないと思いまーす

吉村 それは俺も思う

上田 いくつ離れてますっけ？

上田 5こ上ですよ。僕いま23です

上林 そうね

吉村 世代が違いますよ

上林 若手っていうくくりではある気がしますけどね

榊原 一緒にしないでください、伯爵はもう丸くなり始めてますから

上林 尖ってりゃいいってこともないでしょ

上林 そうかな

高田・竹井入場。

竹井 おつかれさまでーす

高田 コンビニ何もなかったっす
 上林 うん、知ってる
 竹井 肉まん食べたかったね
 上林 カップ麺食べり
 吉村 パンもあるし
 上林 いやこれほんとナイスでした。あざます
 吉村 いえいえ。危なかったね
 上林 ひとまず餓死は回避です
 吉村 東日本の震災のときもコンビニなんにもなくてさ
 上田 あー！ヨシさん向こう出身ですもんね
 吉村 そうそう。あの日塾だったんだけど、すごい揺れて、もうなくなって帰ることになってあー
 上田 でも全然帰れなくてね。そう、まだLINEもなくてさ
 近藤 あ、むーちは？
 上林 ああ、えっと、連絡です。むーちよも家着いたそうです。なので、全員、無事に家につきました
 高田 おく
 上林 ひとまず安心です。皆さんおつかれさまでした
 竹井 本当におつかれさまでした
 榊原 立派でしたよ、みなさん
 上林 ほんとですか？
 榊原 ええ、公演中止をすぐ決めたでしょう。キビキビと誘導されてて、頼もしかったですよ
 上林 ありがとうございます
 近藤 でもめっちゃくちや焦ったよね
 上林 うん。いつも前説で話すけど、ほんとに地震きたのはちょっと
 上田 揺れてんのすぐ分かった？ 私全然わかんなかった
 高田 私ハケで座ってたんでわかりました。結構でしたよね
 吉村 うん、すごい揺れた
 竹井 お客様もザワザワしてましたよね
 上林 さすがにね
 榊原 初めてですよ、観劇中の地震
 上田 ですよ。小さいのはあるかもしれないけど

上林、着信。

上林 ガッさんから

上林退場。

竹井 はじめまして、竹井みやこです
 近藤 あーごめんなさい、近藤です。はじめまして
 竹井 舞台上では何度も観てます
 近藤 ああ、ありがとうございます
 竹井 果実も観に行きましたよ
 近藤 あ、こないだの
 竹井 はい、超おもしろかったです
 近藤 あれ良かったですよ
 竹井 近藤さんもめっちゃかつこよかったですよ
 近藤 そんなことはないですよ
 高田 けっこう近藤さんのファンですよ
 近藤 えーファンとか、えー、あざす。どういう関係なんですか？
 竹井 高校から一緒に。いまルームシェアしてます
 近藤 あーそうなんですね。演劇を？
 高田 観たことないですか？
 近藤 ない。と思う。ごめんなさい
 竹井 いえいえ
 高田 こんど伯爵入るんですよ
 近藤 え！？

吉村 まだオフレコだぞー！
 竹井 ごめんなさい
 近藤 伯爵？マジで？
 吉村 畑がスカウトしたの
 近藤 あ、じゃあ相当力があるんですね
 竹井 全然、そんなことないんですけど、伯爵はずっと前から観てたし、大好きなので
 高田 いいなあ
 近藤 え、伯爵って、全員旗揚げメンバーですよ？
 吉村 うん。二人抜けたけど、みんな旗揚げから一緒やね。初めての新人団員
 近藤 ていうか若（わか）
 吉村 それ
 近藤 あーなんか、そう見えてきたわ。ヒロインですね
 吉村 合うよねきつと

上林入場。

近藤 伯爵キワモノしか居ないから
 吉村 おい
 上林 あー、みやこちゃん？
 近藤 うん、伯爵入るんだって
 上林 みやこちゃん今度うち出てよー
 竹井 出ます！
 上林 めっちゃ上手いよ
 近藤 やっぱそうなんだ
 上林 9月空いてる？
 竹井 9月ですか
 吉村 うちの本番です
 竹井 あっ
 上林 そうなんすかー。ずらしてください
 吉村 いいよ、キャンセル料払ってくれるなら
 上林 しょっぱ
 竹井 ごめんなさい。また今度、ぜひ、誘ってください
 上林 はい。ガッさんいま向かってるそうです
 吉村 おお
 上林 布団持ってきてくれるらしいっす
 高田 いえーい
 上田 ほんとに泊まっていんだ？
 上林 特別に許可をいただきました
 吉村 甘いわー小笠原さん
 近藤 かわいがっていただいてます
 上林 ぼちぼち時間ですかね、えーと、劇場泊でワクワクかもしれませんが、一応安全のためなので、履き違えないように、お願いします。そろそろ電車も動き出すみたいですが、もう夜ですし、皆さんの安全を考えて、明日帰ることにしましょう
 高田 そうしましょう
 上林 じゃ、ヨシさんお願いします
 吉村 はい、ひとまず、吊物を外しちゃいましょうか。小屋の原状復帰を目指していきましょう。すぐ終わると思いますが、いつ大きな余震がくるか分からないので集中して作業してください。こまめに休憩とりましょう。以上です。よろしくおねがいします
 皆 よろしくおねがいします

各自バラシ作業を再開する。

照明…吉村・上田

暗幕…近藤・高田・竹井

その他…上林

榊原 手伝いますよ
 近藤 あーもう全然、ゆっくりしててください
 榊原 分かりました

各自、無駄な会話無く黙々と作業。
間。

榊原 手伝いでしょうか？
上田 私たちのところは大丈夫ですよ
榊原 そうですか

間。

榊原 なにか手伝わせてください
上林 いいですよ、大丈夫ですよ
榊原 でも、居心地悪くて
上林 あーそうですよね。どうでしょう
榊原 何もわからないんですけど……
上林 どこか手足りないところありますか？
高田 大丈夫です
吉村 同じくです
上林 ……とこのことなので、じゃあ、待機お願いします
榊原 待機ですか
上林 はい。お手伝い必要なときにお声掛けします
榊原 分かりました

間。

近藤 なんか音楽ほしくない？
高田 分かります
近藤 むーちょ帰っちゃったもんね
竹井 流しましょうか
近藤 スマホで？
竹井 はい
近藤 あんまりバッテリー使わんほうがよくない？
竹井 まあでもそんなに……

高田、榊原を見ている。

上林 榊原さん
榊原 はい
上林 出番みたいです
榊原 はい？ 御用でしょうか
高田 なにか歌ってもらうことはできますか？
榊原 歌ですか
高田 はい、何でもいいんで
榊原 嵐でいいですか
高田 嵐歌えるんですか？
榊原 はい、ファンなんです
高田 ぜひ、歌ってください
榊原 分かりました

榊原、歌い始める。
皆、作業の手を止める。

吉村 バヤシ
上林 はい、はい。榊原さん
榊原 あ、はい
上林 こっちで仕事です
榊原 ごめんなさい、途中でですけど
近藤 満足しました！

上林 そしたら、そこ押さえてもらっていいですか？
榊原 あ、ここですね？
上林 はい、お願いします

榊原、口が自由なことに気づき、歌いだそうとする。

上林 あ、歌もう大丈夫ですよ
榊原 そうですか

ちよつとの間。

榊原 この公演、えーと、タイトルが

上林 『国唇ヘルペス』です

榊原 すいません。どんなお話だったんですか？

上林 お話は、福岡の大企業が舞台で、上の偉い人たちが腐ってて悪影響を及ぼしてるのを駆逐して
いこうっていう

榊原 そういうドラマありますよね

上林 いや違うんですよ。ストーリー自体は確かにそういう面はあるんですけど、逆に、キャッチ

榊原 ーにして世界に入ってもらいやすくした上で、届けたいものを載せるっていうか
なるほど

上林 タイトルが口唇ヘルペスをもじってるんですけど、日本列島を唇に見立てて、そしたら福岡
が上唇のこの辺ですよ。この辺に吹き出物というか、バッドなものがあって、僕らの身の
回りを会社に例えて、まあこの土地のガンを炙り出そうっていう……あー！

上田 なに！？
上林 ダメダメ！ダメなんですよ、こんな感じで作品を無下にしたら
どういうこと

吉村 わざわざ演劇作品にしたんですから。演劇で届けなきゃ。こんな語っちゃったら、演劇する
意味なくなっちゃうんですよ

榊原 ……。
高田 要はしょーもない福岡の演劇人死ねっていう作品でした
上林 たかな！

高田 そう言ってたじゃないですか

上林 違う、そう見えても良いよねって話ただけで、そう解釈できるゆとりを残そうと努力して
……あー！

上田 もう喋らないほうがいいんじゃない
上林 はい

近藤 僕めちゃくちゃ長いセリフあったんですよ、身体も張る感じで
高田 あれは観てほしかったすよね

近藤 ほんとに

吉村 まだ明かりあるよ。やる？

近藤 いやそれはちよつと違うんですか

榊原 脚本とか公開したりするんですか？

近藤 どうですかね、したほうがいいかもしれませんね

榊原 読みたいです

竹井 脚本結構良いすよね

高田 うん。バヤシ史上No.1やと思う

近藤 でもなんかもったいなかったよね

上田 そうなんよ

上田 私なんか呼ばないで大人の男の人とか呼んだら良かったのに
吉村 若手だけでやるから意味があったんやない？

上田 あー

近藤 でも面白かったですか？

吉村 スパロウズっぽかったけどね

近藤 出たそうなの

高田 安定のバヤシ節

吉村 うん。奇をてらおうとする割にちよつと強さ足りん感じとか

近藤 あんま良くないじゃないすか

高田 私好きでしたけどね

吉村 悪くなかったと思うけど「脚本読んだほうが面白い」ってアンケートに書かれそう
近藤 きっつー
上田 審査委員長、講評おねがいします
吉村 実力不足。もうちょっと頑張りますよ
上林 うるせー！分かってるよくそ！もー、やめちゃうし、演技下手だし、やる気ねーし、東京
高田 やる気ありますよー
上林 演技下手の方だよ！

間。

上林 いやごめんそういうんじゃない。下手っていうのは、なんかこう、単に技術が足りないだけ
けっというか、すごい劇団には出られないかもしれないけど、でも魅力的な演技すると思う
し、助けられてるところあって
高田 フォロー大丈夫ですよ、自覚してるんで
近藤 たかなは下手だよ
高田 うるせっす
竹井 人じゃないものやったら上手いよね
上林 そうなんだよ
近藤 めっちゃいい
上田 憧れるもん
高田 いやもういいんでほんと
近藤 今回の役も良かったもんな
竹井 やっぱりそうなんですな
近藤 うん、ん？
竹井 家で元氣だったんで、なんか順調だったのになって
上林 順調ではなかったけどね
竹井 あら
高田 もー
上林 いやー、観てほしかったなあ
吉村 そうやね

間。

榊原 皆さん、演劇好きなんですな
上林 そう見えます？
榊原 ええ、僕にはそう見えますよ
上林 嬉しいです

上林、
体勢を整える。

上林 榊原さん、今日は本当にありがとうございました
榊原 こちらこそ、ありがとうございます……た？お開きですか？
上林 いや続きます
榊原 ああ
上林 ちょっと休憩にしましょう
上田 全然やってないけどね
上林 さっきこまめに休憩取るって
吉村 はい言いました、ちょっと休憩にしましょう
皆 はーい

適度に散る。

上田・榊原退場。

近藤 いただきまーす
吉村 ういー

近藤、
カップ麺を1つ取り、ケトルにお湯を入れに行く。

上林 (高田のスマホを見て) なん、その壁紙は、見ないでくださいよ

高田 え、だれ?

上林 知らんと思いますよ、アイドルです

高田 好きなん?

上林 私が好きなのはこの人じゃないですけど

高田 なんで壁紙にしてんの

上林 え、いやこれ2ショットなんすよ(ト、画面を見せる)

高田 ほんとだ

上林 こないだバイト先に口ケに来たんすよ、なんやかんやあって写真撮ってくれて

高田 サービスいいな

上林 そうなんすよ

高田 好きになった?

上林 少し

高田 「ピンクビートル」さんも中止みたいですよ

上林 あ、そっか

高田 明日明後日だっけ

竹井 「ピンポンプラザ・ホールで開催予定でしたピンクビートル第8回本公演「愛のカーペット」は本日発生いたしました福岡県南部地震の影響により、開催を中止いたします。楽しみにされていた皆さまには」……はい

吉村 バヤシには言ったけどさ、正直明後日、日曜くらいはできそうだと思わん?

近藤 あー

上林 わかるっすよ

吉村 余震は怖いけどさ

上林 でもそれがデカいっすよやっぱり。遠くからお客さんくることもほとんどないし、仕込みも済んでたし、稽古いままでしてきたしっていうのはありますけど、ここで事故起きたらもう何もできなくなっちゃうと思うんで。今日は皆さん無事に帰れましたけど

吉村 ごめんごめん、ちょっと話題に上げたくなった。正しいと思うよ

上林 若いんだから恐れずに芝居やれよ! とか言われたらごもっともな感じもするんですけどね

近藤 それは、誰が言うの?

上林 え?

近藤 誰かに言われたことある?

上林 いや直接言われたことはないよ

近藤 だよ

上林 なに

近藤 ……誰か言ってくれたらいいのにね

上林 いや言わないでしょ

近藤 そうかな

上林 思っても

微妙な間。

竹井 こないだ、テキテキさんに出たときに

吉村 ああ、出あったね

竹井 はい、オーディション組だったんですけど。打ち上げで、テキテキの演出の濱田さんが「若手の芝居の料金なんて叫び賃だから」って言ってたんですよ

高田 どういう意味?

竹井 技術も何もないんだからとにかく叫べって。思いの丈をぶつけてみろって

高田 お。

間。

竹井 あれ? ごめんなさい、私全然関係ない話急に始めてました?

上林 いや、みやこちゃん、ありがとう。俺もそう思う

近藤 うん

上林 伯爵やめよう

近藤 そうしよう

竹井 え

上田入場。

上林 やっぱりみやこちゃんはスパロウズに入るべき人間だよ
近藤 今すぐやめよう

吉村 まてまてまて

上林 こんな真珠みたいな子があんなキワモノ集団と一緒になるの無理だわ

近藤 もったいない

吉村 お前さっきヒロインとか言ってただろ

近藤 撤回はしませんけど

上林 演劇で伝えましょうか。俺らキワモノね

近藤 オーケー

吉村 俺に伝えられてもしようがないんだけど

上林 はい、たかな、真珠

高田 はい、はい

高田、真珠になる。

近藤 やっぱいいんだよね
上田 真珠だわ

竹井、写真を撮る。

上林 たかなもずっとスパロウズいてね
高田 いやー分かんないっす

上林 あ、そう。みやこちゃんも真珠やつとく？

竹井 いやー、これのあとじゃ気が引けます

上林 そうね

高田 もうやめていいすか

近藤 いいよ

上林 やっぱ芝居で叫ばなきゃダメっすよねー

上田 でも伝わらないよね

上林 なにが？

上田 会場のお客さんには伝わるかもしれないけどさ

上林 ン？

近藤 その外の、社会についてこと？

上田 そうそう。広まりはしないっていうか

上林 ひろなそれマジで言ってる？

上田 え？

上林 俺らの声が届かないって言ってる？

上田 いや届くと思うよ、それは思ってる。けど、多くの人には届かないんじゃない？

上林 そんなことないよ

上田 劇場の外の、世の人に

上林 届くよ。いつかは

上田 いつか。いつかあんだのよく言う熱狂が生まれるの？

上林 そうだよ、それを信じてやってるんだから

上田 いつかはね

上林 いつかじゃダメ？

上田 あたしは信じ続けられないかも、少なくとも福岡では

上林 信じ続けようより東京行っちゃってそれは変わらないよ

上田 そんなことないでしょ。劇場に来る人の数がまず違うし

上林 それはそうだけだよ

上田 そこから広がるものも違うと思うんだけど

上林 うん。劇場のお客さんに届けてそれがちよっとずつ街に広がっていくんだよね？

上田 そうだよ？人数が多いほうが良くない？

上林 親に来る人が多くたって劇団の数だって多いんだからさ
上田 可能性の話をしてるの

上林 分かってるよ。分かってて、福岡でも変わんない？ っって言ってるの
上田 変わるでしょ絶対
上林 そうかなあ。人数と、思いが届くかは別の話だし
上田 別じゃないでしょ
上林 別だろうがよ。東京の劇団だってピンキリなんだから
上田 あんた東京の何を知ってるの？
上林 ちよっと待ってよ。常識だろ。あのね、こないだも言ったけど、ちよっと幻想抱きすぎでない？ 東京に。もちろんみんな知ってるビックカンパニーもたくさんあるけど俺達みたいなのもたくさんいるんだからさ
上田 だからあたしが田舎もんだって言いたいんでしょ
上林 そうじゃなくて。えーと、可能性に期待しすぎなんじゃないかって思ってた。人の数、チャンスはそりゃ多いだろうけど、
上田 じゃああたしが掴めないって思ってるんだね、そういうチャンスを
上林 そんな話してないじゃん。ねえ？
高田 すいません、話見失ってます
吉村 同じく
竹井 同じくです
上林 ああ
高田 なんで東京の話に？
近藤 解説します、ピーちゃんも東京に行こうとしているのです
高田 そうなんですか！
上田 うん
高田 どこか入るとか決まってるんですか？
上田 いやまだ全然。ごめん、私ちよっと出るわ

上田退場。 榊原入場。

上林 決まってるのよ、なんにも。ただ行きたいだけ
吉村 いいの？
上林 納得しようとしてるんですけどね。なんか毎回こんな感じで……
吉村 どうしても行きたいみたいだから、いいんじゃないですかね
上林 遠距離になるやん
近藤 続かないんじゃない？ 思わん？
上林 うーん
近藤 演劇に信じてるものが違うんだよね。多分、もっとたくさんの人に見てほしいだけなんです
上林 よ、自分を

間。

上林 近藤くんは何を信じて……
近藤 榊原さん、ピンクビートルも中止みたいですよ
上林 はーあ
榊原 ピンクビートル……ああ、ピンポンプラザであるやつですか
近藤 そうです。うちより人気あるんですよ
上林 あれは観に行く予定ありませんでした
近藤 そうなんですか
榊原 はい。一度観たことがあるんですが好みではなくて
上林 あー、あ、じゃあほんとにうちの芝居楽しみにしてくださいね
榊原 そうですよ、信じてませんでした？
上林 はい、あんまり
榊原 観劇好きですけど、何でもいいわけじゃないですから
上林 失礼しました
近藤 そうそう、これ言おうと思ってたんですけど、スパロウズはテント芝居が合うと思いますよ
上林 ですよね、僕も言ってるんですよ
高田 いつかはやりたいと思ってますよ
榊原 アングラですか
上林 はい、まあテントでなくても、野外とか、向いてると思うんですよ

上林 もうちょっと実力つけてから挑戦したいっす
 榊原 もったいないですよ。まず先にやってみないと。若いんだから
 上林 若いんだから
 榊原 そうですよ。テントはいいですよ。一度だけ東京まで観に行ったことがあるんですが忘れられませんか。こんな距離でお客さんがぎゅうぎゅうになって、もう熱気が籠もっててみんな舞台上にかぶりついてるんです
 近藤 熱狂、ですか
 榊原 熱狂、いい表現ですね。テントの中も、テントの外も、熱狂でした
 竹井 いいなあ
 近藤 みやこちゃんアングラとか分かる？
 竹井 全く分かりません
 榊原 今どきの人たちは……例えば皆さんはどんな演劇が好きなんですか？好きな劇団とかあるんですか？
 近藤 そうですね
 高田 やっぱ果実じゃないですか？
 竹井 うん
 榊原 劇団果実ですか
 高田 はい、やっぱり私たちの世代はみんな果実大好きですね
 竹井 ワークシヨップとかもよく来てくれるもんね
 高田 そうそうそう、やり方が上手いし、そもその芝居が面白い
 竹井 俳優も一人ひとりがカッコいいんよね
 高田 ほんとそれ
 近藤 僕らも実は果実に憧れて結成したんですよ
 高田 そうなんですか？
 近藤 そうだよ、え、何度か言ってるでしょ
 高田 さあ……え、全然感じないですけど
 竹井 作風だいぶ違いますよね
 上林 似たようなのやってもつまないでしょ。絶対追い越せないし
 竹井 なるほど
 上林 大好きだけどね
 近藤 こいつもオーディション受けてたんだよ
 高田 へー！
 上林 言うな言うな
 近藤 2次で落ちたよな
 上林 3次だわ！
 近藤 ああごめん
 上林 ちよっと待って、オレ絶対お前より果実好きだけどね
 近藤 はいはい
 上林 くそ
 高田 え、てか伯爵も果実と交流あるくない？
 竹井 そうなの
 上林 大丈夫だよ、交流があるだけだから
 高田 めっちゃ負け惜しみっすよ
 上林 ちっ
 榊原 果実は……僕はあまり好きじゃないですね
 高田 ああほんとですか
 榊原 ごめんなさい、僕個人の感想ですよ
 近藤 いえいえ
 近藤 ちなみになんですか？
 近藤 ……あれは、やっぱりナヨっちいですよね。お話は綺麗にまとまってるし見た目も美しいと思いますけど、僕には響かないんですよ。僕はもっと野性的な作品が好きです
 近藤 なるほど
 近藤 でも否定してるわけじゃないんですよ？響く人と響かない人がいるのが演劇のいいところ
 近藤 でもあるわけじゃないですか
 近藤 まあたしかに
 近藤 演劇に限らずなんでもそうですけどね。だから、多少荒削りかもしれませんが、僕はスパ
 竹井 口ウズの方が魅力的だと思いますね

近藤 ありがとうございます
高田 ちゃんと

上林 聞いてるよ。榊原さん、ありがとうございます。今度の脚本、書き換えます

高田 え 自分の信じる道をもっと貫きます。やっぱり言いたいこと言わなきゃダメっすもんね

上林 そうですよ

榊原 まじっすか

高田 まじっす。悪いけど覚え直してください

上林 え

吉村 いまハチコレの話してる？

上林 はい

吉村 ハチコレ中止になるかもしれん

上林 なんですすか

高田 自粛？

吉村 それもあるけど、畑の実家が被害大きいんだって

近藤 まじっすか

榊原 皆さんご家族は大丈夫ですすか

上林 いや絶対やめちゃダメっすよ。こういうときだからこそやらないと。「復興に向けて頑張ろう」とか「力を合わせよう」みたいな、意義もあるじゃないですか

吉村 ……

上林 大勢関わってるし、すでにかなり動いてるじゃないですか。劇場が悪いとか、人集めちゃダメみたいなことでもないんだし、できますよ、しましうよ

吉村 やりたいっていう願望だけじゃダメだろ

上林 それはもちろんですすよ。分かってますよ。今日だって中止にしたばっかですもん

吉村 そうだね、ごめん

上林 ヨシさんも日曜にはできそうとか言ってたじゃないですか

吉村 うん、言った。けどごめん、想像できてなかった

上林 は

吉村 今日無事に済んで安心しちゃってた、ごめん

上林 間。

上林 間。

近藤 畑さんのご家族、無事なんですすか

吉村 うん、命は大丈夫

近藤 よかった

上林 祭りじゃないすか。みんなで集まって復興祈りましょうよ。ほら、さっきテントの話してた

吉村 じゃないすか、今ですよ。畑さんとこにテント建てるとかして、劇場飛び出しちゃって

上林 それもアリやね

吉村 ね？

上林 けどちょっとまだ

近藤 中止って決まったわけじゃないんですよね？

上林 お前は関係ないだろ

近藤 ここでヨシさんにいろいろ言ってもしょうがないだろ！

上林 ……

上林 退場しかける。

上林 退場しかける。

近藤 どこいくんだよ

上林 くそだよ！

上林 上林退場。

上林 上林退場。

近藤 すいません

吉村 いや全然。ありがとう

近藤 はあゝあ

近藤 はあゝあ

近藤 はあゝあ

盛大なる間。

竹井 (ヒソヒソと) どうすんの
高田 え？
竹井 この空気変えんの、たかなしかいないでしょ
高田 嘘でしょ
竹井 なんかつた方がいいんじゃない
高田 なんもできんよ
近藤 聞こえてるぞ
高田 はい！
榊原 ……歌いましょうか
近藤 いや大丈夫です。ちよっと、しっかり一息つきましようよ。僕ら、疲れてるはずなんです
榊原 ……はい

合意の空気が漂い、各々で時を過ごす。
吉村退場。
しばらくのち、野田入場。

近藤 おつかれっす、すいません、交代しましょうか
野田 ああいいよ全然、ちよっとパンもらいに来た
近藤 ああ
高田 (野田の持っている脚本を見て) それ、変わるらしいですよ
野田 え、そうなの
高田 い言いたいことを言うらしいです
野田 あそう。ま、じゃ、覚えてなかったからラッキーということで
高田 あ、っす
近藤 ハチコレ自体も中止になるかもしれないらしいです
野田 あそうなんだ
近藤 はい
野田 了解！

野田退場。

高田 ……野田さんって、どうやってスパロウズ入ったんすか
近藤 バヤシの紹介で
高田 私あんまり野田さんのこと知らないっすわ
近藤 俺もなんだよね
竹井 スパロウズ以外出てないですよね？
近藤 普段働いてるのよ
竹井 ああ、そうなんです
近藤 うん、俺らフリーターだし、ちよっと仕事しながら演劇やるってのが想像つかないところあつて
高田 バヤシさんがやる気ないって言ってたの野田さんのことなんすかね
近藤 消去法でいったらそうなるよね
高田 はい
近藤 やる気なく見える？ 学生から見て
高田 さあ？ 私も想像つかんすけど、仕事もしてたらあんなもんじゃないですかね、とも思
近藤 いますよ
高田 そうね
近藤 フリーターだからって「ああ、じゃあやる気あるんだね」ともならないっすよね
高田 そのとおり
近藤 聞いてみたいんじゃないですか？
竹井 なんて？
竹井 やる気ありますか？ って
近藤 すごいな、聞ける？
高田 絶対無理っす
近藤 地味に怖いもんね
高田 え、やる気ありますか？
近藤 あるつもりなんだけど、え、どう？
高田 近藤さんはやる気あるんじゃないですかね

竹井 やる気ないと果実出れないですよ
近藤 そうか、ありがと
高田 東京行くのもやる気あるからでしょ
近藤 そうかも
高田 近藤さんこそどこか入るとか決まってるんですか？
近藤 もちろん
高田 まじすか、え、どこすか
近藤 今俺じゃなくて野田さんの話題だから
高田 うわ

上田 入場。

近藤 なんて聞く？

竹井 えー、じゃあ、演劇好きですか？ かな

近藤 あー、好きではあるよな、多分

高田 そうっすね、どんな演劇が好きかは分かんないですけど

近藤 演劇好き？

高田 はい。好きっす。稽古嫌いですけど。本番も苦しいんで嫌いですね

竹井 観るほうが好きなの？

高田 いやそういうわけでもない。なんか楽しいんだよね

竹井 なにそれ

近藤 みやこちゃんは演劇好き？

竹井 好きです。もう、ずーっと、好きです

高田 そう、あたしみやこの影響で好きになったんです

竹井 そうだね

高田 だから果実が好きで伯爵も好きで

竹井 私は、多分ちよっと変で、日本語が好きっていうのがあるんですけど

近藤 なになに

竹井 日本語が好きなんです。詳しくないですよ、ただ、響きとか、柔らかかきみたいなのが好きで。多分日本語をいけばん味わえるのは俳句とか短歌なんだと思うんですけど、私そこまで頭良

近藤 なくて、私がいちばん日本語を感じられるのが演劇なんですよね

高田 変でしょ

近藤 変。初めて聞いたそんなの

竹井 なので、演劇でもやっぱり戯曲が好きです。言葉が。で、それを立ち上げる俳優も、より美

近藤 しくする演出も、やっぱり全部好きです

高田 なるほど、たかなは

竹井 なんか、好き、です

近藤 ピーちゃんは、演劇好き？

上田 好きなはずんだけどね

近藤 うん

近藤 大好きではないのかもしれない。……私ファンタジーがすごい好きで、そういう雰囲気のある作品はめっちゃ好きかな。観るのもやるのも。けど、バヤシがやろうとしてるような、なんていうの？ ザ・小劇場みたいなのは、あんまり楽しさがよくわかんなくて。私バカやけんそんなことないよ

上田 いやバカなんよ。ほんとに。よーわからんもん。え、楽しい？

高田 楽しさよりはキツさが勝ちます

上田 分かる

近藤 あー、精神的にキツイことはあるよな

上田 演じる楽しさはあるんだよね、それは私も分かるの。その先を目指してるじゃん、バヤシは。

近藤 きっとコンちゃんもそうなんだと思うけど

上田 まあ辞めようとしてるけどね

近藤 そうね。……「演劇で世界を変える」みたいな活力は私には無いかな。演劇好きだけど、そ

竹井 ういう部分は興味がない

近藤 演劇のチカラみたいなのですかすよね

上田 てか演劇って広すぎるよな

近藤 そうなんよほんと。私スパロウズ出るとき友達呼べんもん。みんなの知ってる演劇じゃない気がしちやって。難しかった、つまんなかったって言われそうで

高田 歌って踊ってハッピーみたいなもののほうが良いんですか？
上田 そういうのとか、演劇って聞くとシェイクスピアとかやっぱ想像するじゃん

近藤 劇場来たら、なんやこれってなるよな
上田 うん。まず「せまつ」ってなると思う

竹井 たしかに
上田 でもみんなさ、なんかこの狭さが好きじゃん
高田 そうっすね

近藤 うん。なんでやるね
高田 落ち着く

竹井 役者がすぐ近くだからじゃないですか
近藤 客席に届きそうよね

上田 なにか届けたいものってある？
上田 え？

近藤 客席に届きたいもの。言いたいこと？ なんていうの？ メッセージ？
上田 あるよ。メッセージではないけど。言いたいことでもないな

高田 なんすか
近藤 え……感覚？

上田 感覚
近藤 感覚

上田 うん、観てて、なんか知らんけど心がキュッとなったり泣けてしまったりということある
近藤 やん、大きな舞台でも。何でもいいんよ、ニヤついちゃうとかドキドキするとか。そのの、

上田 「なんか知らんけど」ってのがめっちゃや大事だと思ってる、それって役者がセリフ以外のと
近藤 ころでも伝えている何かがあるからだと思うんよね。それが感覚かなあ

上田 あーでもそれなら分かるよ
近藤 でしょ、それを、なんか一緒に体験したいというか
上田 あーね

近藤 それをリアルタイムでさ、こんな距離で共同体験できたらさ、良いよね。演劇である意味を感じ
上田 出る

上田 出た、「演劇である意味」
近藤 なんか恥ず

上田 演劇人すぐ語りがるやん
近藤 お前が語らせただろ

上田 もういいわ、ごめん
近藤 つまんない？

上田 難しい。もっと分かりやすくしてパーンとしてるほうが良い
近藤 エンタメだ

上田 エンタメでいいじゃない。わたしエンタメしたいんだわやっぱ
近藤 もうスパロウズ出ない？

上田 出ない。知らん
近藤 あーあ

竹井 バヤシさん、ひとりですね
近藤 うん

高田 え、私も居るんだけど
竹井 そうだけどさ。私たちまだ分かんないじゃん、演劇のチカラ

高田 分かるよ
竹井 あ、そう？ じゃあごめん

近藤 いや怪しいよな
竹井 はい、分かっただらもって演技上手いはずなんです

高田 うるせっすよ、なんとなく、わからんこともない、くらいの「分かる」ですから
上田 分かんないよね

竹井 はい。私もまだ
近藤 俺も分かんないもん

高田 ずるいっすよ
近藤 ごめんいやでもマジでまだまだ全然分かってないから演劇。結成のときとか、バーンバーン、

上田 楽しいー！ 果実の真似ー！ みたいな感じだったのになんか気づいたらこんな感じになっちゃった
近藤 初期の頃のほうが面白かったもん

上田 そうかり、そうよね。バヤシは、多分本気で演劇で世界変えようとしてるんだよね。でもそ
近藤 れって、ほんと、長い道のりで、まずは演劇と世界の関係性を戻すところから始めないとい

けなくて、でもその前に、面白い作品創る力もなくちゃダメで、みたいな、もう遠ーい、未
来なんよ

上田
高田
近藤

はあ
演劇と社会の関係性ってなんすか

んー、なにかを届けるにも、まずは社会に受け入れてもらわないといけないじゃん、今なん
かこんなちっちゃい劇場に籠もってるけどさ、もっと違うはずなんよ。だってどんな民族に
も演劇ってあるんだよ？ すごく普遍的な営みなんだよほんと

上田

待って、もう語っちゃダメ

近藤

ああごめん

上田

コンちゃん辞めてる場合じゃないよ

近藤

そうなんだよ

上田

え？

近藤

え？

高田

……え？

竹井

え

上田

………え？

小笠原・吉村入場。

小笠原

おつかれっすー

近藤

あ、おつかれさまですー

小笠原

バヤシは？

近藤

トイレっすかね

小笠原

あそう、コンちゃん、やったな

近藤

え、なんすか

吉村

夢叶っとなるやん

近藤

え

小笠原

ゲンタから聞いたぞ

近藤

え！ ゲンタさんとガッさん知り合いなんすか！

小笠原

そうなんだよ

竹井

ゲンタさんって

近藤

あいや、ガッさん、その話ちよつとまたあとつす

上林入場。

上林

あ、ガッさん！ おつかれさまです

小笠原

ういっすー。 おし、そしたら皆さん、布団運ぶの手伝ってもらっていいですか？

皆

はーい

竹井

合宿みたい

高田

ね

上田

榊原さん

吉村

寝てるな

近藤

まあいいっしょ

榊原以外退場。

榊原起床。

しばらくのち、ふとんや枕を抱えて皆入場。

高田

どこ置きますかー！

上林

どこでも良いー！

上田

あ、おはようございます

榊原

おはようございます、ああ、すみません

近藤

いいんですいいんです

竹井

まだ並べられないもんね

吉村

ひとまずここ積んどこう

小笠原、カップ麺のダンボールと酒を持って入場。

小笠原 よいしょ

高田 お酒！

上林 あ、ガッさん

小笠原 ん、食料ある感じ？

上林 そうなんすよ、すぐヨシさん買ってきてくれて

小笠原 さすが

吉村 いえいえ

小笠原 じゃ、これはまた非常食で置いてこう

上林 すいません、わざわざ持ってきていただいたのに

小笠原 いいのいいの、あるに越したことはないっしょ。よろし、全員お揃いですか？

上林 はい

小笠原 皆さんおつかれさまです。ほんとにおつかれさまでした。えーと、シアターシエルの管理人ということになっています、小笠原です。すいません、別の仕事もしてて、駆けつけるのが遅くなりました

上林 いやいやありがとうございます

近藤 道も混んでたでしょうね

小笠原 すごかったよ渋滞

吉村 金曜の夜ですもんね、ただでさえ

小笠原 ひとまず皆さん無事でなによりです。お客さんもみんな帰れたんだよね？

上林 はい、連絡いただいています

小笠原 私はお邪魔しています

小笠原 あ、そうですよね、スバロウズの大型新人かと思ってました

榊原 まさかあゝ私なんて、こんなおじさんなんですから

小笠原 はい、冗談ですよ。ひとまずここは無事ということで。良かったですね。ホッとしてる？

上林 はい

小笠原 事情も事情なんで、今日は皆さんお泊りで構いません。一応管理人らしく僕も一緒にします。

近藤 これ、差し入れです（ト、酒を指す）

近藤 あぎます

高田 飲みましょう飲みましょう

上田 大丈夫ですかね

小笠原 ん？

上田 いや、飲んじやって、大丈夫かなって

小笠原 あー、

吉村 まだバラシも終わってないんですよね

小笠原 あー、ああ、はいはい、そっか

近藤 今日は辞めときましょっか

小笠原 そうだね

上林 あの、提案なんですけど、いや、相談なんですけど、バラシ、明日にしませんか

上田 ……それは、飲もうってこと？

上林 あいや、そうじゃなくて、もちろんパッとやっちゃったほうが良いのは分かってるんだけど……ちよっとまだ、できないなっていうか……いやごめんなさい、やっぱなんでもな

近藤 いです

上林 いやいやいや

上林 いやごめん、忘れて。さあ、やりましょう

近藤 いやいやいや

間。皆上林を見ている。

上林 いや……

榊原 まだ整理がついてないんじゃないですか？

上林 ……はい、ついてないっす。でもやらないと。ね？

吉村 どうなんですかね

小笠原 小屋としては問題ないよ、日曜までは

吉村 ああ

小笠原 あとはもう人としていうか

間。吉村が時間を確認する。

小笠原 まあでももう遅いからね。……明日以降でも良いんじゃない？

吉村 ですね
 小笠原 (吊った灯体を指して) 落ちない？
 吉村 大丈夫だと思います
 上林 すいません
 小笠原 大丈夫大丈夫、たぶん。……いや、責任は僕が取ります。よし！ うん、休んだほうがいいよ、絶対疲れてるでしょ
 上林 はい、多分
 近藤 正直僕も、バラすのしんどいなと思ってました
 小笠原 ごめんね、酒なんか持ってきて
 近藤 いやいや、お気遣いじゃないすか
 上田 はい、なんかすいません
 小笠原 全然。いや確かにと思って
 高田 ああ……
 近藤 逃げ遅れてもいいなら飲んででもいいよ
 高田 ずるいっすって
 竹井 置いてくからね
 高田 えー、みんな飲みたくないんすか
 近藤 飲みたい
 吉村 絶対うまいよね
 高田 でしょ、いやでも飲めないっすわあ
 小笠原 また今度、ね
 近藤 ガッさんに言われたらしょーがないっす
 吉村 たぶん一番飲みたいから
 小笠原 もちろん。演劇人として飲みたいっていうのと、責任ある人間として飲んでる場合じゃない
 近藤 っていうのもうせめぎ合って、ギリ勝ってるから
 小笠原 ギリじゃダメなんすよ
 吉村 もーギリギリ。内緒よ。でもまあ、安全第一でね
 小笠原 死んだら演劇できないですもんね
 高田 そうだよー。生きてるだけで丸儲けだね
 上田 お酒嫌いですっけ？
 高田 あうん、あたしは別にそんなに
 意外
 上田 飲みそう？
 高田 はい。強い
 近藤 ピーちゃんはダメよ、すぐ寝るかめちやくちや暴言吐くかのどっちか
 上田 へー
 高田 今寝ちゃうと思う
 上田 へー

竹井、
あくび。

近藤 眠そう
 竹井 ごめんなさい
 高田 もう寝ます？
 近藤 いや、
 小笠原 泣いてんの？
 上林 はい
 小笠原 なんで？
 上林 生きてても演劇できないなあと思って……もー、やっぱりやりたかったなあー！
 上林 間。

上林 な？
 近藤 うん
 上林 思ってる？
 近藤 当たり前だろ
 上林 感じないんだけど
 近藤 え？
 上林 公演やりたかったなあみたいなの、感じないんだけど

近藤 やりたかったに決まってるだろ！
上林 ぜんっぜん、ぜんっぜん伝わんない
近藤 お前ふざけんなよ
上林 お前がふざけてるからだろうが
小笠原 ストップ！……ダメだよ。ダメ

間。

小笠原 やめよう、仲間なんだから
上林 そういう問題じゃないんすよ
小笠原 そういう問題だよ。なんで分かんないの。今まで一緒にやってきたんじゃん。コンちゃんが
上林 なんも考えてないわけないでしょ
……

上林、
突如立ち上がり布団を取りに行く。

上林 寝ます
上田 ちょっと主宰としてどうなんそれは
近藤 ピーちゃんごめん、勘弁して
……
近藤 これまだ灯体点きます？
吉村 え、まあ点けようと思えば
近藤 これとこれだけ、点くようにしてもらえませんか
吉村 いいですか
小笠原 いいよ
近藤 ありがとうございます。皆さんすいません。僕のせいです。みやちゃんとかもう眠いよね
竹井 大丈夫です
近藤 榊原さんは
榊原 さっきちょっと寝ましたから
近藤 すいません、もうちょっと付き合ってください。ヨシさんお願いします。ガッさん、ちょっといいですか
小笠原 うん

近藤・小笠原退場。

吉村 何するんかね
高田 さあ
吉村 劇団員やろ

吉村、
照明作業。

高田 わからんす。なんか、演劇みたいなことやるんですかね
吉村 それはそうでしたぶん
高田 ですか
竹井 演劇愛を叫ぶとか
高田 そういえば近藤さんだけなんも言っていないじゃん演劇の好きなのこ
竹井 うん
高田 それだわ。うわ。なんかごめんなさい、お二人も
榊原 いえいえ
上田 私帰ろうかな
上林 居ろよ

間。

上林 もうスパロウズ出なくていいから、俺と演劇しなくていいから、東京行っていいから、今は、
上田 居ろよ
……わかった

間。

上田 ヨシさんどこ住んでたんですか？
吉村 え？俺が住んでたのは町田だけど

上田 えー、いいな
吉村 知ってるんや

上田 はい、シモキタまで1本じゃないですか
吉村 そうなんよ、今となつては良いところ住んでた

上田 住みやすいですか？
吉村 んー、どうやら、ごちゃごちゃしてるからね

上田 一人暮らしの予定なんですか？
竹井 なんか、役者は23区内に住んでたほうが良いらしいですよ

上田 そうなん？
竹井 やっぱりアクセスが良いから、オーディションでも、同じラインなら23区内に住んでる方が受かるって聞きました

高田 へー
榊原 やっぱりすごい揺れたんですか？

吉村 震災ですか？
榊原 はい

高田 さっきちょっと話してませんでした？
榊原 ああすみません

吉村 やっぱり気になりますか？
榊原 ああ、いや、つい聞いてしまっただけで、そんなに

吉村 でも話してもいいですか？
榊原 ？どうぞ

榊原 地震の、東日本大震災の日は、僕高校2年で、そんなとき塾通ってたんですけれど、午後の講習の途中にグラッと揺れて、結構長くて、机の下にしばらく隠れてたんですよ。で、終わって、すぐ帰宅になったんですよ。通りに出たら、すごい人が居て。邪魔だったからいつもより遠回りして帰ったんです。そしたら、そんな日に限って鍵忘れてて。家入れなかったんですよ。両親も働いてるからしばらく帰ってこないだろうと思って、仕方なく、途中の川の、土手で雑誌でも読むかとコンビニ入ったら、なぐんにもなかったんですよ、食べ物。雑誌は普通にありました。で、買って土手で読んでたんですよ。たまに川眺めて、ゼーんぶ読んで、帰ったんです。そしたら母親がとくに帰ってきててめちゃくちゃ怒られました。心配さすなつて

間。

吉村

なにもないんですけど、これが僕の東日本大震災なんです。次の日にはテレビは津波と原発で、みんな知ってる通りなんですけど、一応、僕にもなんにもなかったわけじゃないんですよ、一応僕なりに震災を知ってるんですよ。福岡の人よりは。だから、……あの、これ懺悔なんですけど、福岡にいますと、「俺震災知ってるし」とか思っちゃうんですよ。知ってるからなんだって話じゃないですか。ていうか知ってるうちに入らないんですよ、こんなのは。被害もないし。今日なんて僕日曜には公演できそうとか言つて……バカですよ

上林 ダッサ

吉村 そうなんよ。ごめん

上田 聞いてんなら出てきたら？

上林 ……

竹井 それどういう顔

竹井 いやこういう話どんな顔して聞いたら良いかわからなくて

高田 あー

竹井 被災した知り合いとかいる？

高田 いない

上田 います？

高田 いないね

高田 ですよ。なんかもう、どうにもできない引け目感じるだけで

吉村 ごめんごめんもう終わろう

榊原 すみません僕のせいです

吉村 いやいや僕が話したかっただけなんで

高田 照明やってください
吉村 うんもう終わる
上田 パン、もらいます
吉村 ……うん
上田 食べました？
榊原 いただきます

上田、パンを取り食べ始める。
近藤・小笠原入場。

吉村 できたよ
近藤 あざます
小笠原 え、ヨシも泣いてんの？
吉村 泣いてないっす全然
小笠原 あそう
近藤 一回点けてみてもらってもいいですか？
吉村 うい

照明を試す。

高田 何するんすか
近藤 ん、内緒
高田 はい
近藤 いいっすね

近藤、吉村のもとへ寄り、小声で打ち合わせ。

近藤 じゃ、すいませんお待たせしました。みんな席座ってください

高田・竹井・上田・榊原、ぞろぞろと（舞台上）客席に腰をかける。
小笠原、舞台上に上演スペースを確保する。

近藤 起きろコラ

近藤、上林を無理やり起こし、客席に座らせる。

近藤 えー、本日は……「国唇ヘルペス2」にご来場いただきまして誠にありがとうございます
上林 勝手に2すんな
近藤 開演に先立ちましての諸注意……は、特にございません。開演いたします。どうぞごゆっくりお楽しみください。……暗転します

近藤、会場内を消灯する。
暗転。
しばらくした後明転、舞台上に小笠原。
遅れて、「近藤役」で近藤。

小笠原 ちょっとだけ昔々、初めて観たお芝居に感動して、憧れて、その道を志した少年がいました。
近藤くんです。のちのち、周りからコンちゃんと呼ばれるようになります。コンちゃんは、大学に入学してすぐの初めての観劇、その衝撃を、学校でいろんな人に話しました。みーんな、「ふーん」と言うだけで関心を示しませんでした。ただ一人を除いて

上林 誰だろ

小笠原 その男は、似合わない眼鏡をかけていて、姿勢が良くて、いつも上下のスウェットで、まあ言えば変なヤツでした

上田 今もじゃん

小笠原 そいつは、同じ芝居を観ていました。「マジで面白かったよね」。コンちゃんは心底嬉しかったそうです。そいつは続けて言いました。「一緒に演劇部入らん？」

高田 ちょっとベタすぎませんか？
上林 いいだろべつに

小笠原 二人は演劇部でよりいっそう演劇にのめり込みました。気づけば、同期や部の仲間とはかなり遠いところにいました。「劇団作らん？」どっちが初めにそう言ったのでしょうか。二人は劇団を結成して、もっともっと演劇にのめり込みました。目指すは、憧れのあの劇団です。でも、その背中をただ追うことはしませんでした。彼らは彼らなりの演劇で、道をひらいていきます。ひとりお客さんが増え、ひとり仲間が増え……

近藤、高田を舞台上に誘う。

高田 いやいやいいです遠慮します
小笠原 ちよつとずつ、進んでいきました。2年と少し経った頃、二人は、同じ記事を見ていました。憧れの劇団の出演者オーディション。二人は、お互いに秘密で、エントリーしていました。

上林 当日、東京のオーディション会場で居合わせた彼らは、会話どころか目も合わせず、また福岡に帰ってきてからもそのことを口にしませんでした。結果的に、コンちゃんがキャストに選ばれました。バヤ、もうひとりの彼

上林 バヤって言いましたよ

小笠原 彼は、その芝居を観に行きませんでした。なぜでしょう？

上林 日程が合わなかったんですよ

高田 ほんとですか？

上林 お前うるさいなほんとに

小笠原 本番を終えたコンちゃんは、数日後、とある人物と肉を焼いていました。「おつかれ」

竹井 ゲンタさん……！

高田 え？

小笠原 ひとしきり労ったあと、彼はこう言いました。「コンちゃん、うち入りなよ」

竹井 え！

高田 マジすか！

小笠原

彼は入団を決意します。すなわち、今の劇団の退団です。迷いが無いわけじゃありません。今まで作ってきた自分たちの道は、すでに歩きがいのあるものになり始めています。仲間も居ます。彼が居ます。けれど、ずっと意識し続けた背中、憧れの場所は、やはりとても輝いていました。問題は、これをどう伝えるか。彼はどんな顔をするでしょう。何度も口を開いては、時間ばかりがすぎました。劇団は常に動き続けていました。タイミングがなかなか掴めませんでした。今の今まで。そんなコンちゃんから、言いたいことがあるそうです。遅くなってごめんなさい。今までありがとう

近藤

上林、頷く。

客席から拍手が起こる。

暗転。

しばらくのち明転。

舞台上に近藤。手にスマホを持っている。

上田 え？

高田 続くんすか

近藤 もしもし、お疲れさまです、近藤です

上林 は？

近藤 ……………はい、僕は無事です。……お客さんも、はい。……ほんと良かったです。……す

上林 いませんお忙しいところ。……いえいえ。……あの、入団の件なんですけど、

近藤 ちよ待て

上林 ……辞退したいと思います

近藤 お前バカ

上林 あ、本当に嬉しかったんですけど、ちよつとこっちでまだ、やることあるなって。……は

近藤 い、それもあって。……………はい、ほんとに申し訳ないです。……………はい、がんばります。

上林 それはもうがんばります。なんで、……………はい。ありがとうございます。……………はい、すみませ

近藤 ン、失礼します

近藤、通話を切る。

近藤 これからもよろしく

上林 お前！ 果実だぞ！

近藤 うん
 上林 うんじゃねえよ
 近藤 福岡でやることあるから
 上林 カッコつけんなお前……、え、え？
 近藤 ごめん
 上林 ええ
 小笠原 というわけで、コンちゃんスパロウズ残留です！
 上田 え、東京行かないの？
 近藤 行かない！
 上田 仲間だと思ってたのに
 近藤 ごめん、行つてらっしゃい
 高田 もったいないっすよ
 近藤 だよー、俺も思う
 竹井 でも、頑張ってください
 近藤 ありがとうございます、また観にきてね

榊原、
拍手。

近藤 ああ、ありがとうございます
 小笠原 許してやんなよ
 上林 いや別に最初から怒ったりとかしてないっすよ。さっぱり送り出してやろうと思ってたのに……も。なんすかマジで！
 小笠原 はは
 近藤 バレてた？
 上林 当たり前だろ。なんなんすかマジで、つーか全然国唇ヘルペスじゃねーし
 近藤 ありがとうございます
 小笠原 いえいえ。久しぶりの役者だけどもまあ良かったでしょ
 竹井 ゲンタさんの真似めっちゃ似てました！
 小笠原 そうそう、昔ちよっと一緒にやってたのよ
 竹井 へえ
 近藤 ヨシさんも、あざした
 吉村 うん。良かった。電気つけてもらっていい？
 近藤 あ、はい

野田入場。

上田 あ野田さん
 野田 ごめん、ちょっと職場行かなきゃいけなくなった
 上林 え？
 高田 今から仕事すか？
 野田 うん、ごめん、俺出るね。今日は帰ってこれないかもしれない
 上林 ああうん、了解、気をつけてね
 野田 近藤、
 近藤 はい
 野田 今までお疲れさま。バタバタでごめんね。……近藤って、すげー頑張るし、実力もめちゃくちゃあるし、演劇大好きだし、東京行っても絶対大丈夫、いや俺なんかが言っても信用ないかもしれないけど、でも近藤なら絶対、成功すると思うから。今まで一緒にやらせてくれてありがとう。向こうでも頑張ってるね。応援してるから

間。

野田 え？

吉村、照明操作。
徐々に暗転。

野田 え、え？

完全暗転。

野田 え？

終幕。
会場内点灯。